

VI 令和4年度「文化芸術による子供育成総合事業 出演希望調書(実演芸術)」

分野、種目(該当する分野、種目を選択してください。)

分野	演劇	種目	児童劇
----	----	----	-----

申請区分(申請する区分を選択してください。)

申請区分	A区分のみ
------	-------

複数申請の有無(該当する方を選択してください。)

複数申請の有無	
---------	--

複数の企画が採択された場合の実施体制(該当するものを選択してください。)

※複数申請の有無で【無】を選択された場合は、未記入で構いません。(グレーアウトされます。)

複数の企画が採択された場合の実施体制	
--------------------	--

その他を選択した場合	
------------	--

芸術文化団体の概要

ふりがな 制作団体名	こうえきざいだんほうじんげんだいこんにぎょうげき 公益財団法人現代人形劇センター		
代表者職・氏名	理事長 塚田 千恵美		
制作団体所在地	〒 211-0035 神奈川県川崎市中原区井田3-10-31		
電話番号	044-777-2228	FAX番号	044-777-3750
ふりがな 公演団体名	デフ・パペットシアター・ひとみ		
代表者職・氏名	代表 榎本 トオル		
公演団体所在地	〒 211-0035 神奈川県川崎市中原区井田3-10-31		
制作団体 設立年月	1969年4月		
制作団体組織	役職員	団体構成員及び加入条件等	
	代表理事:塚田千恵美 業務執行理事:松澤文子 理事:大杉豊、小川信夫、平野英俊、北條秀衛、築瀬恵子 監事:桑野雄一郎	理事:7名 評議員:7名 監事:1名 職員:10名	
事務体制の担当	他の業務と兼任	本事業担当者名	中西 優樹
経理処理等の 監査担当の有無	有	経理責任者名	菅原 真弓

<p>制作団体沿革</p>	<p>1969年 4月 文部省より財団法人設立認可、乙女文楽、和泉流狂言の稽古を開始 1970年 全国のからくり人形の本格調査開始 1973年 海外人形劇団招聘事業開始 1974年 出版事業開始 1975年 全国の伝統人形芝居の本格的調査開始、ヨーロッパ人形劇の実情調査開始 1978年 アジア人形劇の実情調査開始 1979年 国際児童年記念「人形劇カーニバル飯田」を提唱、事務局を担当 1980年 ろう者と聴者との協同による人形劇団デフ・パペットシアター・ひとみ 設立 1983年 デフ・パペットシアター・ひとみ初海外公演(チェコ)、 国際デフ・パントマイム・フェスティバル審査員特別賞受賞 2011年 4月 公益財団法人へ移行</p>		
<p>学校等における 公演実績</p>	<p>2011年度 12校で公演、ワークショップ 2012年度 11校で公演、ワークショップ 2013年度 25校で公演、ワークショップ 2014年度 20校で公演、ワークショップ 2015年度 20校で公演、ワークショップ 2016年度 17校で公演、ワークショップ 2017年度 19校で公演、ワークショップ 2018年度 24校で公演、ワークショップ 2019年度 16校で公演、ワークショップ 2020年度 8校で公演、ワークショップ</p>		
<p>特別支援学校に おける公演実績</p>	<p>2011年度 28校で公演、ワークショップ 2012年度 15校で公演、ワークショップ 2013年度 3校で公演、ワークショップ 2014年度 6校で公演、ワークショップ 2015年度 14校で公演、ワークショップ 2016年度 4校で公演、ワークショップ 2017年度 16校で公演、ワークショップ 2018年度 15校で公演、ワークショップ 2019年度 13校で公演、ワークショップ</p> <p>* ろう学校またはろう者の児童が中心の支援学校を含みます。</p>		
<p>参考資料の有無</p>	<p>A</p>	<p>申請する演目のチラシパンフレット等</p> <p>申請する演目のDVDまたはWEB公開資料</p> <p>※公開資料有の場合URL</p> <p>※閲覧に権限が必要な場合のIDおよびパスワード</p>	<p>有</p> <p>有</p> <p>https://youtu.be/wl6QwyQUBEY</p> <p>ID: <input type="text"/></p> <p>PW: <input type="text"/></p>
	<p>Aの提出が困難な場合</p>	<p>今回申請する演目に近い演目で公演の様子がわかる内容のDVDまたはWEB公開資料</p> <p>※公開資料有の場合URL</p> <p>※閲覧に権限が必要な場合のIDおよびパスワード</p>	<p><input type="text"/></p> <p><input type="text"/></p> <p>ID: <input type="text"/></p> <p>PW: <input type="text"/></p>

公演・ワークショップの内容

【公演団体名 デフ・パペットシアター・ひとみ】

対象	<input type="radio"/>	小学生(低学年)	<input type="radio"/>	中学生
	<input type="radio"/>	小学生(中学年)		
	<input type="radio"/>	小学生(高学年)		
企画名	ろう者と聴者が協働でつくる、家族を描く人形劇			
本公演演目 原作/作曲 脚本 演出/振付	『はこ/BOXES じいちゃんのオルゴール♪』 構成・演出:くすのき燕(人形芝居燕屋) 美術:太田拓美 音楽:田丸智也 やなせけいこ 照明:後藤義夫(ステージ・アイ) 音響プラン:森下勝史(人形劇団ひとみ座) マイム指導:チカパン スライド写真:古 屋 均 舞台監督:やなせけいこ 演出助手:しのぎあき(人形劇団ひとみ座)			
	公演時間(80 分)			
著作権	<input type="radio"/>	制作団体が所有	制作団体以外が所有する事項が含まれる	(制作団体以外が所有する事項が含まれる場合) 許諾状況
演目概要	<p>戦前から現代へ、ある家族の三世代にわたる物語です。時代が進むにつれてテクノロジーが発達していくさまが描かれ、ときにその恩恵を受け、ときに翻弄されながらも、連続と続く家族のきずなを描きます。本作品の大きな特徴はセリフなしで展開していくこと。箱を使った抽象的な舞台美術や、パントマイム、人形の動きをとおして、家族のきずなという普遍的なテーマが描かれます。この表現様式は、1980年の創立以来、デフ・パペットシアター・ひとみがろう者と聴者の協働による専門劇団として洗練させたものです。具体的な意味を持つセリフや説明がないため、観客の想像力はより強く刺激されます。</p> <p><あらすじ> 時代は戦前。一人の少年が幼なじみの少女に恋をしました。不器用なアプローチを繰り返す少年に、次第に少女も心を寄せ、やがて二人は結婚します。決め手は、少年が心をこめて贈った、美しい音色のオルゴール。</p>  <p>悲惨な戦争をなんとか生き延びた二人、やがて二人には、娘が生まれます。テレビ・洗濯機・冷蔵庫など、便利な電化製品の登場に、三人の家族はそろって大喜び。やがて娘は結婚。家族は二世代になりました。</p>  <p>ところが、そんな中、おとうさんが自動車事故で帰らぬ人になってしまいました…。やがて、若い夫婦には男の子が生まれます。家族は今や三世代です。その傍らで、時代はどんどん進んでいきます。パソコンで仕事に追われたり、テレビやゲームに時間を奪われたり。家族はどんどんバラバラになっていきます。</p> <p>そんな家族を見て、今やおばあちゃんになったあの少女が、一つの「はこ」を取り出します。それは、おじいちゃんとの恋、家族との幸せな時間の つまった、思い出のオルゴールでした。</p> 			
演目選択理由	<p>理由 1 表現方法 本作品はセリフがありません。また、道具も大小の箱が舞台上に広がり、それを様々な道具に見立てる形式の作品です。全体に鑑賞者の想像力を使う作品であり、子どもたちが楽しみながら想像力を養うきっかけにもなれればいいと考えております。</p> <p>理由 2 作品のテーマ 本作品は3世代に渡る家族の姿が描かれます。戦争の時代から携帯やテレビが普及した時代を舞台に、その時代に生活をする人々が描かれます。子どもたちは鑑賞後、両親に昔の時代のことを聞くこともあるでしょう。そういった家族でのコミュニケーションが作中でも重要な要素になっており、コミュニティの繋がりが希薄になっている現代にこそ必要なテーマだと考えております。</p>			

<p>児童・生徒の共演、参加又は体験の形態</p>	<p>公演の前に段ボールを使ったワークショップを行います。 ワークショップでは、子どもたちがいくつかのグループに分かれて段ボールを何かに見立てて表現します。 例えば段ボールをテレビに見立ててグループでそれを見ることといったことが考えられます。 作品中に出てくるはこを様々なものに見立てて表現をすることを、そのワークショップで子どもたちが疑似体験ができます。 その上で公演の前に子ども達のグループがそれぞれ自分たちが段ボールを何に見立てたかを発表する機会も作ります。 子どもたちの想像力や表現力を養い、公演の前の良い導入になると考えられます。</p>		
<p>出演者</p>	<p>デフ・パペットシアター・ひとみ 榎本トオル、鈴木文、やなせけい 他3名</p>		
<p>公演出演予定者数 (1公演あたり)</p>	<p>出演者: 6 名 スタッフ: 3 名 <hr/> 合計: 9 名</p>	<p>機材等 運搬方法</p>	<p>積載量: 3 t 車 長: 7 m 台 数: 1 台</p>

【公演団体名 **デフ・パペットシアター・ひとみ** 】

<p>実施に当たっての 会場条件</p>	<p>実施条件等確認書①をご確認ください。</p>					
<p>会場設営の所要時間 (タイムスケジュール)の 目安</p>	<p>前日仕込み</p>	<p>無</p>	<p>会場設営の所要時間</p>	<p>3</p>	<p>時間程度</p>	
	<p>到着</p>	<p>仕込み</p>	<p>本公演</p>	<p>内休憩</p>	<p>撤去</p>	<p>退出</p>
	<p>8時30分</p>	<p>8時30分～11時30分 ※仕込み後、児童と ワークショップの稽古</p>	<p>13時30分～15時10分</p>	<p>なし</p>	<p>15時30分～17時</p>	<p>17時</p>
	<p>※本公演時間の目安は、午後1時乃至1時30分からの概ね2時限分程度です。</p>					
<p>児童・生徒の 参加可能人数</p>	<p>ワークショップ</p>		<p>40人まで(6～7人ずつ、6グループに分かれて実施)</p>			
	<p>本公演</p>		<p>300人まで</p>			
<p>ワークショップ 実施形態及び内容</p>	<p><テーマ> 箱からイメージをふくらませよう！ <道具> ・学校でご用意いただくもの：ホワイトボード(黒板)、ビデオカメラ(作品撮影用) ・参加する生徒にお持ちいただくもの：1-2 個小さな箱(お菓子の箱など) ・劇団が持参するもの：大小数種類のダンボール箱 <概要> 6名前後で構成されたチームごとに、箱を「何か」に見立てます。 物の形を作るのではなく、物の機能や特性を考えて、大小いろいろな箱を使って、携帯電話や動物など、なにかに見立てて表現します。それをグループの中で皆で相談して進めます。最後に各グループで発表し、表現が伝わるか、また伝わらない場合は何が問題なのかを考えて、次の表現に生かします。 <ワークショップの進行> 1、アイスブレイキング(心と体をほぐすための準備運動) 講師陣の自己紹介と手話の紹介をする。その後、手話表現の動きをもとにした身体ゲームをおこなう。次に生徒たちが自由に歩きながら、アイコンタクト&タッチ(目と目が合った者同士がタッチする)を行う。このゲームを通じて、気分をほぐしながら自分の気持ちを伝える事や、他者の表現を読み取る力を養う。 2、デモンストレーション 1 デフ・パペットシアター・ひとみのメンバーによる実演。どんなふうに表示すればいいかを参考にしよう。 3、製作① チーム(学校での班分けでも可)に分かれて作品の製作を行う。 1 回目は、1 個の箱を使うものを 10 個以上考える。その中から 1 つを皆の前で発表し、A区分・B区分・C区分共通 作品を見た生徒さんたちは感想を述べる。 4、デモンストレーション 2 デフ・パペットシアター・ひとみのメンバーによる、複数の箱を使った実演。 5、製作② 複数の箱を使って何かを表現するものを複数考える。その中から 1 つを皆の前で発表し、作品を見た生徒さんは感想や意見を述べる。 6、製作③ 製作 1,2 を踏まえて、本公演の際に発表する作品を各チーム 1 つずつ決める。 7、公演前稽古 本公演日は発表前に 1 時限分程度、稽古する</p>					

<p>ワークショップ 実施形態の意図</p>	<p>ワークショップを通じて、児童達に想像力を養うきっかけを作りたいです。 児童たちは段ボールを使い、その段ボールをなに見立てることができるかを想像します。 子どもたちは段ボールをテレビや携帯などといったものに見立てるうちに、物事を多面的に見て表現する力を身に付けることができます。 その上で公演を鑑賞することで、舞台に広がるはこが何を表しているのかを児童達も想像しやすくなり、作品世界へ入り込みやすくなる効果を狙います。 もう一つの意図として、ワークショップを通じて児童とアーティストの交流をする狙いがあります。 デフ・パペットシアター・ひとみは耳の聞こえないろう者と一緒に活動をしている劇団であるため、子ども達はろう者のアーティストとろう者と共に活動をしているアーティストと触れ合うことで、社会の多様性や共感性を学ぶきっかけになることを考えております。</p> <p>新型コロナウイルスまん延状況を鑑みながら、三蜜を避ける対策などを綿密にしながら進行していきます。</p>
<p>特別支援学校での 実施における工夫点</p>	<p>デフ・パペットシアター・ひとみはろう者のアーティストと聴者のアーティストと一緒に活動をしている人形劇団です。 そのため耳が聞こえることや聞こえないことに関係なく、幅広い人たちが楽しめるように制作しております。 これまで全国の聴覚障害者学校を始め、特別支援学校での公演・ワークショップの経験があります。 その経験を活かし、生徒の様子を見ながら先生との相談を密にして実施いたします。 特別支援学校の場合、障害の種別により対応が変化していくため、適切な対応を考え柔軟なワークショップ/公演を考えます。</p>
<p>実施可能時期</p>	<p>実施可能時期スケジュール表をご確認ください。</p>

【令和4年度文化芸術による子供育成総合事業－巡回公演事業－実施条件等確認書①】

ID	A4	分野	演劇	種目	児童劇	ブロック	A	区分	A区分
公演団体名	デフ・パペットシアター・ひとみ				制作団体名	公益財団法人 現代人形劇センター			

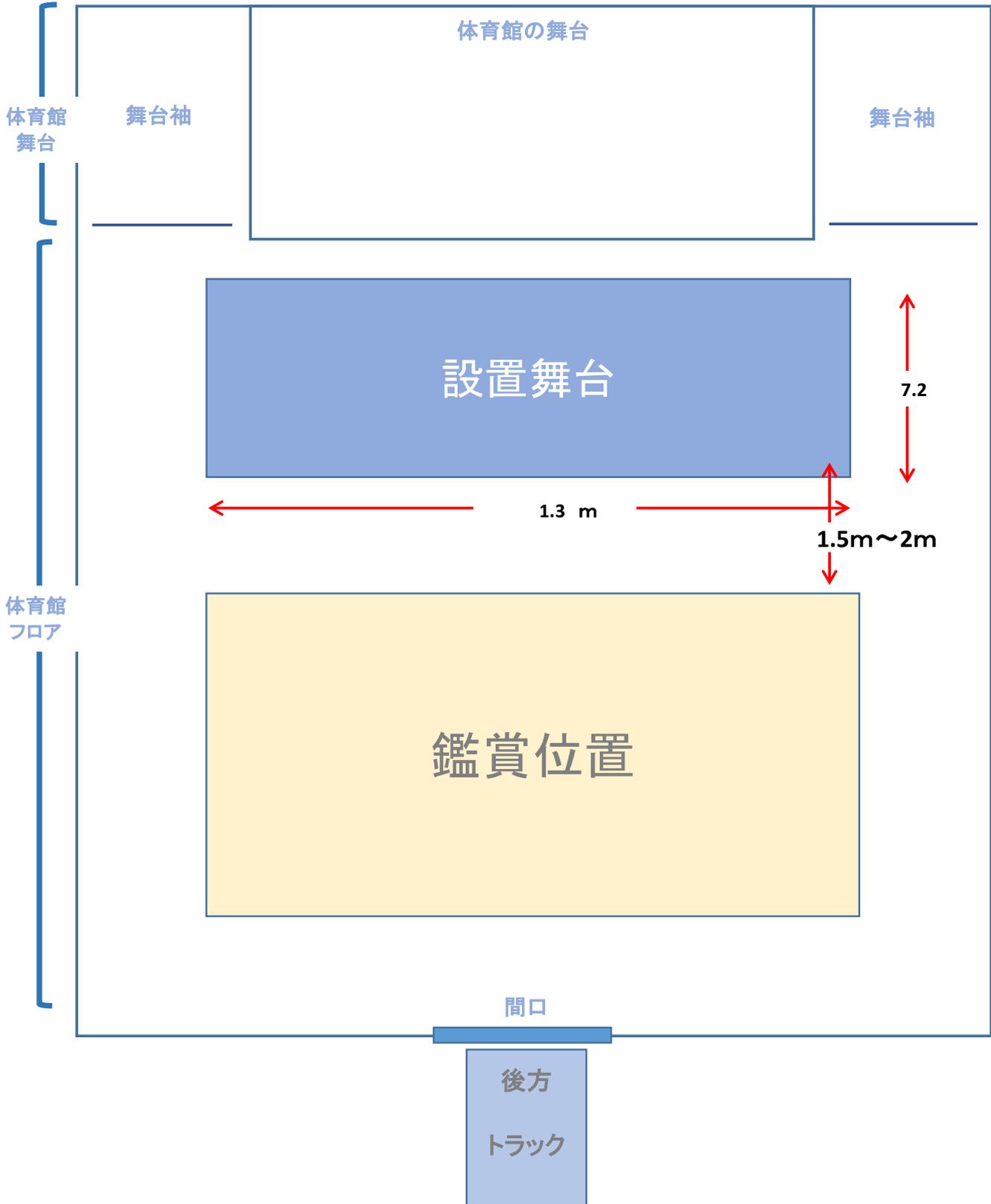
① 会場条件等についての確認

項目	必要条件等							応相談		
控室について	必要数*	1室	条件	昼食をとるために使います。				可		
搬入について	来校する車両の大きさと台数*			3トラック	1台	バン	1台	不可		
	上記車両について「応相談可」の場合、内容詳細							/		
	来校する車両の内、横づけが必要な車両の大きさ			長さ7m 1台					可	
	搬入車両の横づけの要否*			要				可		
	横づけができない場合の搬入可能距離*			50m				可		
	搬入経路の最低条件			横づけできない場合は、雨に当たらない経路が必要です。				不可		
	理由			道具を濡らさないため。				/		
	設置階の制限*			エレベータがない場合は3階が限度					—	
	搬入間口について 単位:メートル		幅	85cm	高さ	1.85cm		可		
WSIについて	参加可能人数		40人まで(6~7人ずつ、6グループに分けて実施)				可			
	学年の指定の有無*	なし	指定学年*	小学生	高学年		可			
	所要時間の目安 単位:分		90分程度				可			
本公演について	会場設営・本公演・メインプログラムの所要時間			※「出演希望調書」内「会場設営の所要時間(タイムスケジュール)」の目安を御参照ください。				/		
	鑑賞可能人数			300人まで					不可	
	舞台設置場所*			フロア				不可		
	舞台設置に必要な広さ 単位:メートル		幅	13m	奥行	7.2m	高さ	3.8m	不可	
	体育館の舞台を使用する場合の条件	舞台袖スペースの確保*			要				可	
		舞台袖スペースの条件*							—	
		緞帳*		不要		バトン*		不要		可
	遮光(暗幕等)の要否*			要		理由		照明効果を上げるため		可
	ピアノの調律・移動の要否 (調律費・移動費は経費対象外です)	指定位置へのピアノの移動*		不要		※指定位置は会場設置図面にて御確認ください。			—	
		ピアノの事前調律*		不要				—		
	フロアを使用する場合の条件		バスケットゴールの設置状況*		問題なし				—	
	公演に必要な電源容量			60A		※主幹電源の必要容量			不可	
その他特記事項							応相談			
平土間で観賞していただくため、見やすくするため木製のベンチ(3種類、24枚)を持ち込みます。							可			

会場図面(表記単位:メートル)

搬入間口について	幅	85cm	高さ	1.85cm
搬入車両の横づけの可否		要		
横づけができない場合の搬入可能距離		50m		

※搬入に関する条件の詳細については、図面上の表にて御確認ください。



搬入間口について	幅	85cm	高さ	1.85cm
搬入車両の横づけの可否		必要		
横づけができない場合の搬入可能距離		50m		

※搬入に関する条件の詳細については、図面上の表にて御確認ください。

きみの街に人形劇がやってくる!

実施日程	都道府県
11月	千葉県千葉市
	茨城県下妻市
	茨城県ひたちなか市
	千葉県富津市
	千葉県千葉市
12月	千葉県東村山市
	茨城県下妻市
	茨城県坂本東市
	茨城県常陸太田市
	東京都青梅市
	東京都調布市



デフ・パペットシアター・ひとみの紹介
 日本でただひとつ、耳の聞こえない人と聞こえる人が一緒に人形劇を作っているスロの劇団です。
 1980年に劇団創立。今年が劇団ができてから41年目です。
 北海道から沖縄まで、日本全国で公演しています。
 海外公演も多く、チェコ、フランス、ポーランド、エジプト、イエメン、アラブ首長国連邦、バレーン、カンボジア、香港、韓国、ニュージーランド、アメリカなどで公演してきました。

劇団の名前ってどういう意味?
 ろう者と聴者が共につくる
デフ = deaf (耳が聞こえない人)
パペット = Puppet (人形劇団)
ひとみ = 目で見てのしむ

令和3年度 文化芸術による子供育成総合事業一巡回公演事業一

ろう者と聴者が共につくる
デフ・パペットシアター・ひとみ
 DEAF PUPPET THEATER HITOMI



はこ / BOXES

じいちゃんのオルゴール♪

ぼくすいーず



撮影：古屋均

～10月1日は「国際音楽の日」です～
 1977年にユネスコの要請で設立された国際音楽評議会という会議で、翌年の1978年から毎年10月1日を、世界の人々が音楽を通じてお互いに仲良くなり、交流を深めていくために「国際音楽の日」とすることにしました。
 日本では、1994年から毎年10月1日を「国際音楽の日」と定めています。

文化芸術による子供育成総合事業一巡回公演事業一
 我が国の一流の文化芸術団体が、小学校・中学校等において公演し、子供たちが優れた舞台芸術を鑑賞する機会を得ることにより、子供たちの発想力やコミュニケーション能力の育成、将来の芸術家の育成や国民の芸術鑑賞能力の向上につながることを目的としています。
 事前のワークショップでは、子供たちには鑑賞指導又は鑑賞指導を行います。また、実演では、できるだけ子供たちにも参加してもらいます。



文芸春秋

キャスト

足立 沙樹
 榎本 トオル
 近藤 隼
 鈴木 文
 やなせ けいこ
 山本 コーンズ



スタッフ

構成・演出：くすのき燕
 美術：太田 拓美
 照明：後藤 義夫
 音響操作：中山 知二
 演出助手：木俣 かおり
 スライド写真：古屋 均
 スログラムデザイン：宿谷 とも美 / ミナミデ タカユキ

デフ・パペットシアター・ひとみの手話

【響】 右手のひらで右耳をふさぐようにする。

【目】 中指を立てて指先を動かす。

【劇】 互い違いに向けた両手で、両こぶしを互い違いに動かす。

【人形】 右手の親指と人差し指と中指を立てて指先を動かす。

【団体】 両手を肩の上に重ねて、両こぶしを互い違いに動かす。

【ひとみ】 右手の人差し指で右目をさす。

【シスター】 両手を肩の上に重ねて、両こぶしを互い違いに動かす。

【十】 両手を肩の上に重ねて、両こぶしを互い違いに動かす。

※イラストは(一財)全日本ろうあ連盟発行「新・日本語・手話辞典」より出題・転載しました。

大きい「はこ」 小さい「はこ」
 つめたい「はこ」 ぬくもりの「はこ」
 すべては「はこ」からはじまった…。



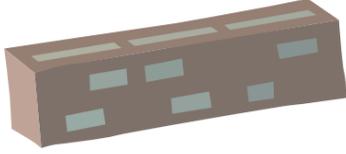
ものがたり

ひとりの男の子がおさななじみの女の子に恋をしました。
 でも、気持ちを伝えるのはたいへんで、なかなか言い出せません。
 ある日、男の子はオルゴールをおくります。
 男の子の気持ちを聞いた女の子。
 心をかよわせたふたりはとても幸せになりました。

そんなとき、戦争がはじまります。
 男の子は兵隊になり、ふたりははなればなれに。
 戦争は家族にたくさんつらい思いをさせました。
 けれど戦争は終わり、男の子は帰ってきます。

愛し合う男の子と女の子は夫婦になります。
 娘が生まれ、ふたりはお父さんとお母さんになりました。
 家の中には新しい物がどんどんふえます。
 洗濯機やテレビ、冷蔵庫、扇風機……。
 家族3人はいつも一緒に、楽しく暮らしていました。

やがて、娘は大きくなって結婚し、男の子が生まれます。
 ふたりはおじいちゃんとおばあちゃんになりました。
 新しい家には新しい物がますますふえます。
 家族のくらし方も昔とは変わって、パソコンで仕事におわれたり、
 テレビやゲームに夢中になったり……。
 家族はバラバラになってしまったのでしょうか？
 そんなある日、おばあちゃんが取り出したものは……。



うれしいことや楽しいことだけでなく、かなしいことやつらいことも、
 生きていく中で、家族はたくさん出会います。

みなさんのひいおじいちゃんやひいおばあちゃんの
 若い頃から今の時代までの、ひとつの家族のおはなしです。



今日のお芝居は、みなさんが知っている、または見たことのある人形劇と少しちがう
 と思います。言葉をとんとん使いません。人形はでてきますが、それ以外にでてくる
 ものは「はこ」だけです。でもきくと、お話はわかると思いますが、「はこたち」は色々
 なものに見えるはず。みなさんのもの「想像力」という力によって、そう見えるの
 です。コナンのように「すいり」をする。科学者のように「すいさつ」をする。
 ほかの人を思いやる。これらは全て、この「そうぞうりよく」によって生み出されます。
 なぞなぞをといたりするのが大事なのよ。近ごろでは、サッカーでも「そうぞうりよく」
 のあるプレーというのがあるよ。

それでは、「そうぞうりよく」をいっぱい使って、このお芝居を楽しんでください。



このお芝居には昔懐かしい機械が出てきます。

知っているかな?

洗濯機と手回し脱水機

洗濯物をローラーにはさんで
 くるくる回して水をしぼります。



黒電話

ダイヤルに指を入れてまわし
 電話をかけます。



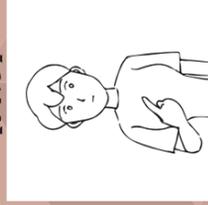
ちくおんき
蓄音機

ハンドルをくるくるまわすと
 レコードから音楽が鳴ります。



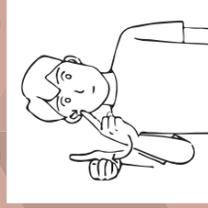
きみも手話を
 やってみよう。

【自分】



人差指で胸を指さす。

【お父さん】



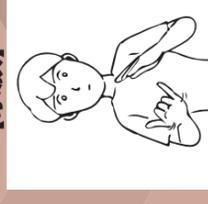
右人差指でほおにふれ
 親指を出す。

【お母さん】



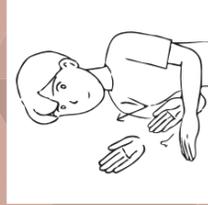
右人差指をほおにふれ
 右小指を出す。

【家族】



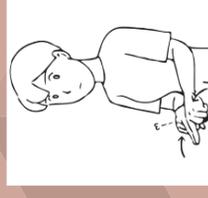
左の屋根形の下で
 右手の親指と小指を振る。

【ありがとう】



右手を左手甲に軽く当て
 拝むようにする。

【一緒に】



両手の人差指を
 左右から合わせる。

【楽しい】



両手のひらを胸の前で
 交互に上下させる。

引用 『新日本語-手話辞典』2011年6月10日発行
 編集 社会福祉法人全国手話研修センター-日本語研究所
 監修 米川明彦
 発行 一般財団法人全日本ろうあ連盟
 制作・販売 中央法規出版株式会社
 イラスト ふるはしひとみ
 *全日本ろうあ連盟および全国手話研修センターの複製許諾を受けて
 います。ただし、この資料の複製は禁止されています。